

## 農地中間管理事業評価委員会における評価及び意見

### ○ 開催日時・場所

- ・令和4年6月28日(火)午後1:00～3:00
- ・NOSA I 会館2階研修室(甲府市宝1-21-20)

### <評価委員(敬称略)>

山梨大学生命環境学部教授	渡辺 靖仁(委員長)
元山梨県中小企業団体中央会専務理事	橋田 恭
元山梨県農政部技監	篠原 隆美
元笛吹市農業委員	春田 美子
前山梨県指導農業士会会長	大河内真吾
元山梨県青年農業士会会長	井上 能孝

※所管課である農政部担い手・農地対策課 佐藤課長補佐、新谷副主幹が出席

### ○ 報告事項

- (1) 令和2年度農地中間管理事業の評価委員会概要の公社HPでの公開について  
(公社 對木事務局長 説明)

- ・「農地中間管理事業の推進に関する法律第9条第4項」の規程に基づき、情報公開している項目のうち、令和3年6月29日の評価委員会にて、委員からいただいた評価と意見は【報告事項】のとおり。

### ○ 協議事項

- (1) 令和3年度 農地中間管理事業の実施状況の評価について

(ア) 令和3年度 農地中間管理事業の実績(公社 對木事務局長 説明)

<事業実績>

#### ○農地の借入れ、貸し付けの実績

- ・農地中間管理機構の推進について、昨年度も周知不足であるのご意見があったため、令和3年度についてもラジオやチラシなどでの周知を図った。
- ・新型コロナの感染拡大の影響などによりは時期は遅れたものの、毎年度実施している市町村への協力を依頼するキャラバンを7～8月、11月に行った。
- ・農業会議と連携し、農業委員に向けた研修や会議等に参加し、事業の説明と周知を図った。
- ・県全体では、借入件数・面積、貸付件数・面積とも昨年度と比較し増加となった。
- ・中北地域においては、企業への大規模貸付が多く、ある程度事業が周知されている状況で貸付実績も増加傾向である。
- ・峡東地域においては、シャインマスカットの栽培が引き続き堅調で、前年度と比較すると9割程度の実績だが、近年はコンスタントに貸付が進んでいる。
- ・富士・東部地域は、令和3年度は貸付実績が大幅に減少したが、令和4年度は実績が伸びるよう年度当初から積極的に活動している。

○機構借受農地整備事業の実施状況

- ・農地中間管理権を取得した農地に簡易な整備を行い担い手に貸し付ける事業を、49地区で約13.2ha実施した。

○農地売買等事業

- ・規模縮小農家から農地を買い入れ規模拡大志向農家へ売却し、担い手への集積を支援する事業を、甲州市で1件、面積20a、1,239千円実施した。

○果樹苗木育成・担い手貸付に関する事業の実績

- ・果樹栽培を希望する新規就農者の経営初期のリスクを軽減するため、機構が借り受けた農地を整備し、苗木を植え、3年間育成管理した後に貸し付ける事業を実施しており、令和3年度は、平成30年度に設置した南アルプス市小笠原地区のほ場を新規就農者に貸し付けた。
- ・令和4年度は新たにほ場の設置をする方向で農務事務所でも調整を行い、進めているところである。

○農地中間管理事業以外の公社事業

- ・農地中間管理事業を進めていく中で連携して行う事業として、農業の担い手支援に関する事業、県奨励品種等種苗供給対策事業等の実績を説明。

(イ)令和3年度 農地中間管理事業の収支決算 (公社 山口主任 説明)

○令和3年度農地中間管理事業決算報告書について

- ・公社全体の決算報告書を説明した後に、農地中間管理事業の決算について説明を行った。

〈貸借対照表〉

- ・流動資産については未収金の前年度との比較増減の要因等について説明。
- ・流動負債については事業未払金の前年度との比較増の要因等について説明。
- ・固定負債については長期預り保証金の前年度との比較増について説明。

〈正味財産計算書〉

- ・経常収益については用地売却等収益、農地中間管理用地貸付について説明。
- ・経常費用については農地中間管理事業借賃原価の内容について説明。

(ウ)令和2年12月の事務処理ミスの対応状況 (公社 對木事務局長 説明)

- ・令和3年12月をもって精算は全て完了している旨を説明。
- ・令和3年度の農地賃料の徴収・支払いについて、専用システムの本格稼働、チェックリストの活用による複数人での金額等の確認を行い、ミスなく清算業務が行われたことを説明。

**【委員による評価】**

[橘田委員]

- 貸付面積が増加しており評価できる。継続して取り組んでいただきたい。未収金についても、様々な取り組みを行い引き続き回収を進めていただきたい。
- 管理システムを導入したとのことだが、人の目でも確認を行い、信用の回復に努めているとのことであり、全般的によく努力していると思う。

[篠原委員]

- 北杜市の実績が伸びている。基盤整備したところへ長野県から多数耕作に来ているが、県外の人に使ってもらってよいと思う。そうすることで中間管理事業の実績が上がり、地域の農業者への事業の周知にもつながるのではないかと。
- 地域によっては思うように集積が進まないだろうが、実績の少ない市町村にもPRを行い、全市町村で活用をしてもらいたい。全体的によく努力していると思う。

[春田委員]

- 収支決算を見ると、賃料が回収できていないものがあるようだが、徴収が大変だと思う。賃料の徴収が進むよう、契約の際に後継者の有無等の基準を設けてはどうか。

(事務局)

公社としては、後継者の有無等に関わらず、営農計画がしっかりしているなど要件が揃っていれば貸すべきであると考えている。未収金については、今後も回収に取り組んでいきたい。

[大河内委員]

- 中間管理事業が開始した当初と比較すると、実績が増えており驚いている。
- 数字も大切だが、地域の状況に合わせて、荒廃農地がそのままにならないように取り組んでもらえたらよいと思う。

例えば、近所に荒れているブドウ園があるが地主との話し合いがうまくいかず、農業委員はなかなか間に入ってくれない。荒廃農地の解消のため、公社も動いてほしい。

(事務局)

今はシャインマスカットもあり、耕作放棄地の解消にはベストなタイミングだと思う。事業も使えるものは使って解消していきたい。今年度は、年度当初から多くの地域の農業委員会を訪問しており、今後はこれまで以上に集積も進むのではないかと考えている。

[井上委員]

- 他の委員と同様、事業の実施についてよく努力していると評価している。今後、中間管理事業の実績を継続して維持していくためには、農業を産業として強くしていくことが必要。
- 優良農地の維持・活用のため、県外の人々が耕作に来ることは賛成である。耕作放棄地も解消しないといけないが、山間地などで荒廃が進んだ農地は森林などに戻しても良いと思っている。それよりも、優良農地、あるいは優良農地なのに耕作放棄地となってしまう所にコストを掛け、農地の維持を図るべきではないか。

【その他意見】

[橋田委員]

- 貸付が増加していけば、今後、長期末収金が増えていくのではないかとと思われるが、対策はどのように考えているか。

(事務局)

4月以降に行った再請求、督促状の送付等によってかなり回収が進んでいるが、徴収が進まないものは催告書を送付し、最終的には法的手段も考えている。所管課である担い手・農地対策課とも相談して進めている。

## (2) 令和4年度農地中間管理事業の取り組みについて

### (ア) 令和4年度 山梨県農地中間管理機構活動方針 (公社 中村専務 説明)

[渡辺委員長]

- 資料5では平成24年の集積率が27%となっているが、資料5-1では平成26年で17.1%になっているのはなぜか。

(事務局)

県では今後認定農業者になっていく人も含めており、国より広い視野で担い手を捉え支援している。そのため、県では担い手を国と異なった基準で整理していることから数字が異なっている。

[大河内委員]

- 山梨では規模が小さい農家も多く、現状維持で農業をされている人には認定農業者になるメリットが無いように思う。認定農業者のみでは、担い手への農地の集積の数字を上げていくことが難しいと思うがどのように考えているか。

(事務局)

国の担い手の基準も重視しているが、当県では施策の対象を必ずしも認定農業者に限っていない。新規就農する方、高齢者でも農業を始めたい方も担い手として位置付けている。県としては、あらゆる農家を担い手として位置づけることで実績を上げていくことができると考えている。

### (イ) 令和4年度 山梨県農地中間管理事業の重点実施区域及びモデル地区

(公社 志村主事 説明)

[渡辺委員長]

- 各地区の期待される効果の欄で企業参入のところに○があるがどのように調査しているのか

(事務局)

市町村に照会している。その地区に企業の参入予定がある場合には丸印が記載されている。企業参入に丸印が付いていても、誘致した企業だけでなく、地元の規模拡大志向の農業者などにも貸付を行っている。